

Magazine of Teikyo
Alternative Life

[フレア]
TAKE FREE

Flair

March 2009 / Spring
Vol.
73
THE TEIKYO SELF

CONTENTS

02 This is my style.

こんな風に、暮らしています

12 Good Fellows.

やっぱり仲間が、一番です

14 Good Health.

やっぱり健康が、一番です

15 What's Up?

いま、何やってる?

16 Our Recommend!

みんなの、カルチャー

18 Notice Board.

大学からのお知らせです



特集

大切な家族



www.teikyo-u.ac.jp/flair/



相模湖キャンパスにて

File:8

name: 上田幸一郎さん
 grade: 1
 hobby: ヨーヨー
 class: 薬学部薬学科

10年間続けたヨーヨーが生んだ、いろいろな出会い

初めて見た人は、まるでヨーヨーが生き物のように動くさまに驚くだろう。上田さんが行う競技ヨーヨーは、実のところ世界でも日本がトップレベル。「全国の大会に出るときは、毎回終わった後におなかが痛くなる」ほど緊張してしまうそう。

でも、その一方で大会を通じて、「全国に仲間ができたことは、本当に宝」という。その仲間と一緒にオーディションを受け、ドイツ・ブランドのシヨーにも出演した。音楽に合わせて、技を組み合わせ、振りつける。「シヨーは派手だけど、練習は地味に家にもこもってやっています」

そして、「今後もヨーヨーの活動を広げていきたい」という彼の未来には、どんな素敵な出会いが待ち受けているのだろうか。



おもに東京・中野にある専門店で購入したもの。「ひとつ約¥3,000~¥10,000。右上の赤いヨーヨーがお気に入りです」

This is my style.

こんな風に、暮らしています。



宇都宮キャンパスにて

File:7

name: 高橋綾香さん
 grade: 3
 hobby: サッカー
 class: 理工学部航空宇宙工学科

サッカーをしている姿が楽しそうだったから

「未経験だったので、ルールもわからず大変でした。よくフェイントにも引っこかりましたし」さわやかに笑う高橋さん、なんと紅一点のサッカー部員である。入学したばかりの新生歓迎時期、グラウンドで楽しそうにボールを追いかけているサッカー部員を見て、思わず顧問の先生に話しかけたのがきっかけだ。

「そうしたら『大丈夫、やってごらん』って言ってもらえて。先生が紹介してくれた女子サッカーの社会人チームも掛け持ちして、バリバリ練習しました」授業が忙しくなった3年生からはあまり顔を出せていないが、卒業してもサッカーは続けたいという。水を得た魚のように走り回る彼女の姿が、今から目に浮かぶようである。



木星の写真を撮ろうと、お父さまから譲り受けたカメラ。将来は宇宙関係の仕事に携わりたい、と夢を語った。

特集

大切な家族

お父さん、お母さん、おばあちゃん、おじいちゃん、
兄弟、姉妹、ペット…家族はやっぱり、あったかい!

♥ 大学生になり、ひとり暮らしをして初めて家族のありがたみに気づいたという人も多いはず。そこで今回は、さまざまな家族の日常風景を覗き見。そこには、お母さんの手料理、幼い頃の家族旅行など、家族の数だけ物語がありました。さらに、4人のカメラマンが世界各国で出会った家族たち、あるひとりの写真家が撮り続ける家族写真など、家族のことをいろいろな視点から考えてみます。いつでも自分の味方でいてくれる存在、まるで自分の分身のような存在…あなたにとって、家族って何ですか?

ばあちゃん、
長生きしてね



♥ 将士さんのお母さんの味、「鶏飯」。薩摩藩時代のおもてなし料理が家庭料理になったそう。ご飯の上に鶏肉などの具を乗せ、鶏ガラベースのスープをかけていただく。



♥ 「ラーメン屋さんなのにラーメンを食べた記憶はほとんどなくて、カツ丼が大好物」と将士さん。お母さんが仕事でないときは、このお父さんのカツ丼が迎えてくれた。



♥ 将士さんの成人式を誰よりも喜んだのは、祖母の永田藤江さん 85 歳。大島紬の紋付袴を着た成人式の写真と並んでいるのは、七五三の写真。立派に大きくなった！

ひとり暮らしをして初めて、家族も、きれいな海も 当たり前存在ではないと分かりました。

島にはいつでも、
待っていてくれる人がいる

「地元に戻ると、やっぱりほっとしますね」とリラックスした笑顔で語るのは、理学療法学科2年の与島将士さんだ。現在は地元である奄美大島を離れ、福岡でひとり暮らしをしている。

将士さんの帰郷の際には、ラーメン店を営むお父さん、邦重さんお手製の、カツ丼と看護師のお母さん、さつきさんが作った郷土料理「鶏飯」という2つのふるさとの味が待っているという。

「小学校3年のときから、高校まで野球漬けでした」という将士さんがここまで成長するまでには、共働きの両親をはじめ、おばあさま、ご近所の方々のあたたかい愛情と支えがあった。

将士くんと言わせると「のんきな感じで、人に話しかけられやすいところが自分と似ている」

という邦重さんは元自衛官で、退役後はラーメン店を20年来営んでいる。あいさつや礼儀には、人一倍厳しかった。しかし「お店を継いでくれとは言われたことはなく、好きな道に進めと、野球も応援してくれた」と将士さん。「小さい頃はキャッチボールをよくしたけれど、今は息子の球がすごいのでちょっと」と邦重さんは照れくさそう。いつも「試合は見に行かないよ」と言いつつも、将士さんがピッチャーマウンドに立つてふと観客席を見上げると、そこにはいつも邦重さんの姿があったという。

看護師であるお母さんのさつきさんは、将士さんの高校時代の3年間、奄美大島から鹿児島に単身赴任していたキャリアウーマン。「ばあちゃんやご近所の方々、野球部のお友達のお母さんなど、みんなに助けてもらいました。都会ではありえないことも

ありませんが、息子が家にいないなど思ったら、お隣のお家でご飯を食べたり、そんなこともありました」とさつきさん。子供はみんな育てるもの、そんな昔ながらの習慣が、まだこゝ奄美大島には残っているというのだ。

将士さんは、そんな働くさつきさんが毎日作ってくれるお弁当の空箱を、帰ってきていちばんにかばんから出し、「おいしかった」と報告するのが日課だった。さらに、「このハンバーグはピカイチだよ」とか、誉め上手なので作りがいもあります」とさつきさんが話してくれた。

そんな将士さんは、理学療法士の勉強を始めて家族の体調も気にするようになったそう。「お父さん、お母さんが肩が痛いと言ったので、話をしながら原因を探るようにしています。ひとり暮らしのばあちゃんも高齢なので、心配ですね」

大学卒業後の進路について将士さんに尋ねると、「最終的には地元に戻り、お世話になった島の人たちに恩返ししたい」という。ひとり暮らしをして初めて、島の人たちのあたたかさに気づいたという将士さんにとっては、両親やおばあさまだけでなく、お世話になった島の人たちすべてが、かけがえのない大切な家族なのかもしれない。

♥ ご近所の方々が集まって、何やら井戸端会議。魔除けになるという貝殻について、与島くんも興味津々。「将士くんは、小さいころスモモジュースが好きで…」と話してくれたのは、お母さんが仕事のときに、よくお世話になった、伊集院タツエさん（写真左）。



RELATIONSHIP 昔ながらの家族の姿が残る 南の国、奄美大島へ

福岡キャンパスに通う与島将士さんの実家は、お父さんがラーメン屋さん、お母さんが看護師さん。小さい頃からお世話になっているご近所の方々が集まって、愛情と笑顔にあふれた奄美大島の家族のひみつを聞くことができました。

右 / 与島将士さん 福岡医療技術学部理学療法学科2年 中 / 与島さつきさん (母) 看護師 左 / 与島邦重さん (父) 飲食店経営 左下 / ナナ(イヌ1歳4か月)



右/杉本 郁(たかし)さん(弟) 高校2年生
中/杉本 啓(さとる)さん(兄) アスレティックトレーナー養成専門学校
左/杉本 巧(たくみ)さん 法学部法律学科3年



右/石井公子さん(双子・妹) 帝京大学職員 八王子キャンパス広報グループ
左/石田朋子さん(双子・姉)



石田裕依さん 理工学部バイオサイエンス学科3年
チップ(ウサギ1歳)



右/香川幸允さん(兄) 経済学部経済学科3年
中/香川忠介さん(弟) 経済学部経済学科2年
左/香川政夫さん(父) 帝京大学空手道部 師範

兄、弟、いつもふたりを笑わせたい

3兄弟×水泳=親友感覚

水泳を通して育まれた 男三兄弟の関係性

「お互いに名前と呼び合うし、上下関係もない」と、次男であり、水泳部のキャプテン、巧さんは自分たち兄弟について語る。母の幸江さんも、「兄弟げんかしたのは、いちどきり」というほど、3人は仲がよい。

同じスイミングスクールに通い、気づいたら、兄弟全員が同じクロール200mを選んでいました。「水泳の話は常にしてますね。オリンピックのときはそれで持ち切り」で、水泳を通して共有する時間の積み重ねが、自

然と3人を強く結んでいる。三兄弟の中で、巧さんはムー



♥ 明るくほらかな母幸江さん、マイペースな父親一さんを交え、笑いがたえない。三兄弟のために幸江さんは、ときどき気合いを入れて、餃子なら140個をつくる。



♥ 幼いころは水泳中心の生活で、家族全員で一緒に出かけたことは、ほぼなかった。それでも、杉本家には、水泳を通して、たくさんの大切な思い出がある。

双子だからこそ分かる、感じる、家族のつながり

双子×新しい家族=幸せ倍増

喜びと悩みを共有し、 並んで歩む人生

昨年10月、姉妹に4人目の赤ちゃんが生まれた。正確には、姉の朋子さんが2人目となる女の子を出産した。「でも、2家族で4人の子供を育てている感じだから」。そう言って、公子さんはベビーカーを覗きこむ。

「誰よりも自分を理解してくれる相手」。ふたりは互いの存在を、そう説明する。親友みたいな関係でもなく、夫婦みたいな関係でもなく、確かに、形勢しがたい関係だ。何しろ、ふたりは意見が食い違うということが、ほとんどない。まるで、もうひとりの自分がいるよう！



♥ 朋子さんの第2子、美海ちゃん。2組の両親から愛情をたっぷり注がれて、すくすくと育っている。お兄ちゃんたちと遊べる日も、もうすぐ！



♥ 「そんなに似てない」と笑う、その笑顔、仕草、声のトーンが瓜ふたつ。「一度だけ、自動車教習所の授業を代わりに受けたことがある」と懺悔(ざんげ)。

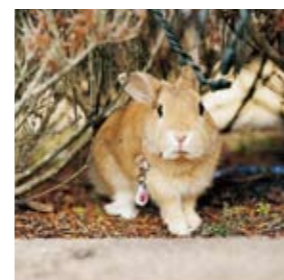
大変なこともあるけど、心が和みます。

ご主人×ウサギ=安らげる同居人

春や秋になると、 一緒に散歩します

石田さんがウサギの「チップ」と暮らし始めたのは半年前のこと。実は彼女には、その前にもウサギのパートナーがいた。「私は一人住まいなのですが、昔「うさた」という子と一緒に住んでいました。夏の間、室温が気になるので祖父に預けていたら気に入られて(笑)、戻ってこなくなっちゃったんです」

「元々家の中で飼う動物なので、外で遊ばせなくてもいいんですけどね。私が遊んでもらっているのかもしれない(笑)」



♥ やんちゃそうに見えて、意外と臆病な一面もあるというチップ。年はおよそ1歳。ウサギの寿命は約10年。これからは長い付き合いになりそうだ。



♥ 散歩していて、茂みに入り込んでしまったチップ。自分の名前を呼ばれている意識はあるようだが、久しぶりの散歩で無我夢中なの知らんぷり…。

父は師範一兄弟で歩む空手道。

空手家族×師弟関係=固い絆

厳しい寮生活と親子間の 師弟関係が育んだ空手道

「父親は、男として尊敬できる存在。頼れる親父って感じかな」と、兄の香川幸允さんがはにかむ。弟の忠介さんも隣で、こくりとうなづく。空手道部の部長として、寮生活を送るふたりは普段、父親のことを「親父」とは呼ばない。なぜなら、彼らの父親は、空手道部員が「師範」と仰ぐ香川政夫さんだからだ。

「誰よりも自分を理解してくれる相手」。ふたりは互いの存在を、そう説明する。親友みたいな関係でもなく、夫婦みたいな関係でもなく、確かに、形勢しがたい関係だ。何しろ、ふたりは意見が食い違うということが、ほとんどない。まるで、もうひとりの自分がいるよう！



♥ 空手道部は男女合わせ41人。掃除や炊事は当番制で分担する。寮内はどこもピカピカ! 「規律正しい生活をしてこそ、強くなる」が師範のモットー。



♥ 「偉大な父」に背を向けた中学時代。兄はバスケットボール、弟は野球に打ち込んだ。でも、高校入学と同時に、空手道へ。いまは互いに良いライバル。



写真も家族も消されへん

伊東俊介さん Syunsuke Ito

1971年生まれ。写真家。雑誌「Re:S」[リンカラン]「天然生活」などで活躍するかわら、ライフワークとして、家族や、日本の旅風景などを被写体として写真に収めている。2009年4月26日(日)には、兵庫県の西宮にて家族写真館を開館する予定。詳しくは、<http://re-s.jp/>にて。

INTERVIEW

家族を撮り続ける写真家に出会った

「1年にいちど、家族の写真を撮りませんか」一般の家族をライフワークとして撮り続けている写真家、伊東俊介さん。伊東さんにとって、「家族」って何ですか？



(上)「たくさん並べるとおもしろい」と伊東さん。この家族写真は、年賀状にしたり、10年間連続で収められるアルバムにしたりできる。「笑っているように、笑っているように、笑っているように。しかも不思議なことに、家族だと自然とおさまりがよく見えます」
(下) 右が伊東さん夫婦、左が伊東さんのお両親を撮った写真。「改めて、まゆげとか、手の位置とか、瓜分たつたのでびっくり。立ち姿もまるで一緒なんです」

家族のつながりは切っても切れないもの

大阪を中心として、1年のうちに数日間だけ、一般の家族の人たちの写真を撮る。家族写真館。が開かれていく。撮影するのは、独自の視点で覗いた風景や人物を撮り続け、雑誌などでも活躍する伊東俊介さんだ。「あるとき、家族写真を撮る。写真館。という仕事のよさに気づいたんです」。しかも「着飾らず気軽に撮ってもらえる写真館があったらいいなあ」と思っていたのが、このイベントの始まりだった。

地元の大阪を中心に活動し、いちど来た人はまた来年も…と、撮った家族は300以上。いろいろな家族に出会った。「4年間撮り続けている、とある夫婦は、お子さんが生まれた年に、ちゃんと母の顔、父の顔になって

写っていました。大学進学で息子と離れるお父さんから、「考えてみたら、息子と確実に一緒に過ごせるのは人生のうちで、あと半年だけ。だから写真を残しておきたい」と頼まれたことも。そんな気持ちは、ものすごく心に響き、写真家としての責任を感じます。もはや、家族の姿を追い続けることは、伊東さんのひとつのライフワークとなった。

やがて家族写真を撮り続けるなかで、伊東さんも自身の家族と向き合うことになる。「両親を撮影したとき、親父があまりにも自分に似ていて、驚いたんです」。昔は顔も見たくないと思うほど避けていたというお父さんの写真を見て、「自分はこの人の息子だと認めざるを得なかった。そのとき初めて、家族を受け入れることができましたね」。そして「仕事や友達などを全部失っ

たとしても、家族だけは最終的に残るもの」だと思ったそう。家族写真は、今の記録のために撮るものではなくて、将来その瞬間を思い返すために撮るもの。たとえば、家族同士の心が離ればなれになっている時期があっても、ふと写真を見て、気持ちややらぐ。デジカメだと、簡単に消してしまえるけれど、フィルムで残せば、絶対に形として残る。家族写真が、家族の心をつなぐきっかけになったら」と、伊東さんはシャッターをきりながら、願っている。

「小さな写真館の親父になって、家族写真を撮り続け、さらにそんな写真館が日本中に増えてくれるとうれしい」と今後の夢を語る伊東さん。人間の関係性の中に家族という形がある以上、黙々と家族の記録を残していくことだろう。

SCENERY OF FAMILY

いろいろな国の、いろいろな家族

世界各国を旅してきた4人のカメラマンのシャッターを通して見る、それぞれの家族のカタチ。万国共通、でもオンリーワンの家族の笑顔をお届けします。

インド



みんなの笑顔がなにより印象的だった家族。異国から来た私をおおらかに受け入れてくれて嬉しかったのを覚えています。インドではカースト制の影響で家の仕事を継ぐことが多く、だからこそ余計に家族とのつながりも濃く、深いように感じました。



在本彌生さん Yayo Arimoto

10年以上にわたる客室乗務員のキャリアを経て、2000年より写真活動を開始。世界中を飛び回り各地の風景や人を撮影している。



20年前にNYで撮影。この日は月に一度の食事会の日だったらしく、真ん中のおじいさんを中心に2家族が集まっていました。アメリカではそれぞれのプライベートと、家族とのコミュニケーションをバランスよく大切にしている家族が多いようです。



小尾淳介さん Junsuke Obi

アメリカで写真を学び、フリーのカメラマンとなる。人、風景、物との“出会い”の素晴らしさをカメラを通して伝えている。

アイスランド



子供たちの妖精みtainな笑顔と透明感に惹き付けられ、思わず声をかけ撮らせてもらった1枚。アイスランドでは大家族が多く4人兄弟なんて序の口。子供から老人まで一緒に生活することが、アイスランド人が優しさに溢れている秘密だと思います。



ARIKOさん ARIKO

京都生まれ。1995年にニューヨークへ移住し写真を学び、2006年から拠点を東京へ移す。2008年に写真集「SOL」を発表。

トルコ



トルコのバムツカレという温泉地で撮った、笑顔のかわいい親子です。夕方涼しくなると、沢山の家族が遊びに来て足湯に浸かったり、ラクダに乗ったり、出店でお菓子を買ったり…、古き良き日本のような、どこか懐かしい風景が広がっていました。



田尾沙織さん Saori Tao

東京生まれ。日本写真芸術専門学校を卒業後、プロとして活動。透明感やさしさに溢れる写真で独特な世界観を表現している。

HACHIOJI CAMPUS

VOLLEYBALL

練習は厳しい。でも「しごき」ではない。
自分に欠けているものを認識し、自ら高めていくやり方。
一人ひとりの実力が上がれば、チームの成績も上がる。
メンバー自身が、それを一番良くわかってきた。

「練習は、自主的にやるもの」

帝京大学男子バレーボール部のキャプテン、小島さんはそう力強く答えた。週に4〜5回の練習の中でも、レシーブやアタックなどのひとりではできない練習、あるいはゲーム形式で行う練習以外は、部員各自が自分で足りないと思うことを自主的にやっているのだという。

部員は11人。決して多いとはいえない人数だからこそ、ひとりでも本気を出していない者がいれば目についてしまう。試合の勝敗は、プレーヤー個々の実力の累計で決まるものではない。その証拠に「全員が声を出

している顔をしているときは、強いチームと対戦しても通用するようなバレーができるんです。でも、ミスが出ると崩れちゃう」と、小島さん。チームワークが不可欠という意味では、キャプテンの役割も重要だ。

「キャプテンだったら、プレーでも部員を引っ張らなければいけないと思うんです。それはプレッシャーであり、モチベーションでもありません」
現在の成績は、14部中6部。

「自分の求めるレベルでプレイしたい。引退までに、4部まで上がりたいですね」と語るのは、副キャプテンの山岸さんだ。

「個人的には、オフの日など時間を見つけて筋トレを行っています。休んじゃうと、上に行けないので。…もちろん、ゲームの方が楽しいですけどね」

一緒に切磋琢磨している仲間はずべてが1・2年生。上下関係は厳しい方ではないが、みな自分には厳しい。自分との戦いを経てこそ、晴れ舞台で感動の戦いを魅せることができることを知っているからだ。

帝京大学
男子バレーボール部

Teikyo Univ.
MEN'S VOLLEYBALL CLUB

すべて1・2年生の部員、11人で構成される。監督は、10年以上帝京大学のバレー部を見続けてきたベテラン。今でも試合があると、OBの方々が応援に駆けつけてくれる。歴史ある部だ。



Good Fellows.

やっぱり
仲間が、
一番です

やっぱ、健康が一番です

QUESTION

どうという症状が出たら「うつ」なんですか？

不景気や就職難といった、暗い話題が多いこのごろ。「うつ」という言葉があちこちでよく聞かれます。なかには「ひよっとしたらうつかも...」と思った経験のある人も少なくないのでは？

ANSWER

無気力や落ち込み、孤独感などが代表的。でも、なかなか見えづらい症状もあるので注意が必要です。



中尾睦宏 Mutsuhiro Nakao 帝京大学医学部心療内科 教授 東京大学医学部卒業後、同大医学系大学院、ハーバード大学公衆衛生大学院などを経て現職。日本心身医学会指海医・関東地方幹事、日本行動療法学会編集委員などを務める。

具体的に「うつ」とは どういうものですか？

Dr.: 怒りや不安など、ネガティブな感情はたくさんあります。その中でも「うつ」は物事を暗く考えて喜ばなくなっている状態です。病気としては、几帳面すぎて自分を責める「メランコリー親和型」うつ病が典型ですが、最近「ジスチミア親和型」うつ病が話題となっています。若者に多いのが後者です。「ジスチミア」というのは「気分変動」という意味で、なんとなく暗い気持ちになってしまったり、仕事などで頑張れない気分が続くことです。原因としては学校や社会への適応障害も考

かかってしまった場合の対処法はありますか？

Dr.: 自分を全く客観的に見られなくなってしまうと、被害的な感覚に陥ってしまう場合が多いので、まずは状況を分析することが大切です。それから周りの人が「自分を責めることはない」ということを分かってあげることですね。そもそも「うつ」になりやすい人は、まじめすぎる人が多

「うつ」かなと思ったら病院に行った方がいい？

Dr.: 精神科は行きにくいという人がいますが、最近は質問紙や面接法で簡単に診断できる場合もあるので、「うつ」かなと思ったら一度病院に行ってもいいですね。不眠、不安感、食事がおいしくない、腹痛、頭痛など、さまざまな体の症状が出ている人は、少し気をつけたほうがいいかもしれません。ちょっとした体調不良が、「うつ」の早期発見につながるということは多く多いのです。

友人が「うつ」になったらどうすればいいですか？

Dr.: 基本的には「待ち」のスタンスでいいと思います。静かに見守ってあげて、何かあればすぐに話ができるような。そういう距離感でいるのがいいと思います。

ところで先生、休日は何をしていますか？

Dr.: 仕事をしていることが多くなくなってしまいます。でも家にいられる時は、ペットの犬と過ごすことが多いです。話しかけたりもしてますね(笑)。



What's Up?

いま、何やってる？

原田隆史さん

プロトリアスリート 病気になる、箱根駅伝に出られなかった。だからこそ、今の自分がいます。



プロトリアスリートの原田隆史さんは、駅伝競走部強化1期生として、「箱根駅伝を目指し、将来は実業団で走りたい」と思っていた。大学3年生の夏、C型肝炎を発病し、激しい運動はもうできないと宣告を受けた。

当時、C型肝炎の完治率は30%。インターフェロンの抗がん剤の投与、辛い副作用との戦いの中、自分の力を信じ続けた彼は、2000年に見事に病気を完治した。そして、「たまたま立ち寄った本屋でトライアスロンの本を見つけて。入院していたときに、自分より重い病気で苦しむ方を目の当たりにしました。だからこそ、肝炎を患った

自分が厳しいスポーツに挑戦することで、同じように病気で苦しむ方に少しでも希望を与えられないか、と考えました。その想いは、約8年もの長い現役生活を支えてきたモチベーションのひとつだ。

そして、今考えると、箱根駅伝に出られなかったことで逆に、それを超える大きなものを掴みたいという気持ちになれたんです。その目標があるから、頑張れるんですよ」と語る彼の前向きさは、選手生活において、大きな強みにもなっている。スイム、バイク(自転車)、ランの順に競技を行うトライアスロンの。「最初のスイムは先頭集団か

ら遅れないこと、次のバイクはできるだけ風の抵抗を避けること、などマネージメント力が必要。1種目だけが強くても勝てないので、奥が深い」と、彼が追求することはまだまだ多い。

「入院したときに、たくさん本を読んで、文字という伝達手段の影響の大きさに気づきました。だから僕も、今までの自分の足跡を本にしたいんです。もちろん選手としてオリンピックも、目指しますよ」と夢は大きい。よく、鉄人レースと称されるハードな競技、トライアスロン。大病を乗り越えて強さと夢を手に入れた鉄人は、前だけを向いて、世界に挑む。

Takashi Harada 帝京大学文学部社会学科 '98卒。大牟田高校で全九州優勝も経験し、帝京大学へ駅伝強化1期生として入学するが、幼い頃受けた血液製剤が原因でC型肝炎を発病する。2000年の完治後、トライアスロンに転向しプロとして活躍。公式サイトはhttp://www.t-harada.jp/

SPOT

「古い街並みと豊かな自然、八女の魅力はいっぱいです」

推薦人 福岡医療技術学部理学療法学科2年 入部友輔さん



▲「八女市」
福岡県南西部に位置する。豊かな自然に囲まれ、温和な気候に恵まれている。八女福島仏壇・八女提灯・石灯籠・和紙などで有名
福岡県八女市観光協会 http://www.yamekankou.com/c_map.html

家族がいる、友だちがいる。この街が好き

入部友輔さんが生まれ育ったのは、福岡県南西部に位置する八女市。家族や友だちがそばにいる、この街が大好きだ。大学へも電車で30分かけて通っている。「お茶畑と田んぼばかりの街」と謙遜するが、八女市のいいところは誰よりも知っている。特に、入部さんがイチオシするのが「一度飲むと忘れられない」という八女茶。実は、国茶品評会でも常に上位に入賞する最高茶葉だ。特に、伝統の本玉露は、緑茶の中では最高級とさ

れ、日本一の質と量を誇っている。「昔ながらの古い街並みが残っているのも魅力のひとつ。それと、ひとが優しい、人情味があるのも、いいところだと思えます」と入部さん。そんな街だからこそ、「周りの友だちも、地元に残っているのかな」。将来、理学療法士として医療施設勤務を希望している入部さんだが、「一度は都会に出てみるかもしれないけど、いずれは戻って来ると思う」とのこと。いつも心に、帰る場所―HOMEがある入部さん。街の魅力を伝えられる、そんな「ひと」こそが、八女市の財産なのかもしれない。

全国にある帝京大学のキャンパスで学生生活を送るみなさんに、友だちにもすすめたい、お気に入りのひとつ、聞かせてもらいました。お気に入りの場所や映画、音楽や本。そこには、それぞれの思い出と、大学生生活の現在がいっぱい詰まっています。

MUSIC

「PUNKROCKのメロディが、頭の中を駆け抜ける」

推薦人 理工学部航空宇宙工学科2年 平 竜亮さん



▲「Sevenhundred Sundays」NEVERSTORE (BMG JAPAN ¥1,980)
2007年に発売された、「NEVERSTORE」のデビューアルバム。キャッチーなメロディを活かしたバンクが好評を博し、欧州では一躍人気バンドに。

大学生だからできることバンド、やるうぜー！

「疾走感のあるPUNKROCKが大好き」と話す平竜亮さん。なかでも最近のおすすめが「NEVERSTORE」。ルックスの良さもさることながら、キャッチーで澄んだメロディに定評がある、スウェーデン出身の3人組だ。「偶然テレビで流れたPVでハマリ、タワレコで買いました。特に4曲目の「Stay Forever」は、イントロからめちゃくちゃ上がります！」

普段から、暇を見つけてはCDショップに足を運ぶ。試聴して

みて、気に入ると買いたくなる。気に入った音楽は、ひとにも薦めたくなる。「『GRENDAY』とか『ALLISTER』、日本でいうと、『ELLEGARDEN』とか、好きなひとにはぜひ聞いてほしいです」

「高校のときは受験勉強が忙しかった」という平さん。大学に入學し、念願の軽音楽部に入部した。現在はギターとボーカルを担当。「初めてのバイト代で買ったギターには思い入れがありますね」。だからこそ、平さんが今いちばん大切にしているのは、軽音楽部の仲間と過ごす時間だ。「ライブは最高に楽しい！」

Our Recommend!

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| み | ん | な | の | 、 |
| カ | ル | チ | ャ | ー |

「10回笑える映画、ご紹介します」

推薦人 医療技術学部臨床検査学科3年 田畑有佳子さん



▲「奇人たちの晩餐会 リマスター版」 (アルバムボックス ¥3,990)



©Une coproduction GAUMONT-EFVE-TF1-FILMS

▲「奇人たちの晩餐会」
誰もが認める奇人を連れて来た者が勝者となる「奇人たちの晩餐会」。主人公ピエールは、「今日は我こそが勝者」と自信があったのだが…

笑って、笑って、バカを突破!!

「ようやく定期試験が終わりました！」と声を弾ませるのは、田畑有佳子さん。臨床検査技師を目指し、日々の授業や実習に追われる田畑さんにとって、唯一の息抜きは、好きな映画をゆっくり観ること。「どちらかというと古い映画、コメディが好き」という田畑さんは、「近所のTSUTAYAをブラブラして、ちょっと埋もれている面白い映画を掘り出すのが楽しみ」と話す。DVDのパッケージを裏返し、解説を読み「面白そう」

かどうかを判断する。頼りになるのは、自分の勘。そのドキドキ感もたまらないらしい。

そんな田畑さんが「ものすごく面白い！」とイチオシするのは、99年ヨーロッパ全土で1000万人を動員し、大ヒットした「奇人たちの晩餐会」。晩餐会に招いた「奇人」を笑いにするはずが、最後には自分がバカを見る羽目になるというブラック・コメディ。「誰でも、10回以上は笑ってしまうはず」と田畑さん。そう言った端から、つい思い出し笑い。思いっきり笑ったあと、ちょっと優しい気持ちになれる、そんな映画だ。

「あの頃の“あり余るエネルギー”が蘇る、抱腹絶倒エッセイ」

推薦人 理工学部電気電子システム工学科2年 宇都宮直樹さん



▲「あの頃はアホでした」東野圭吾 (集英社 ¥580)
無法地帯同然のクラスで、命がけの学級委員をしていた中学校時代。学園紛争元祖の学校で送った、熱血高校時代etc.一読する価値アリの爆笑エッセイ。

青春にアホで無鉄砲なエピソードはつきもの!?

「普段はあまり本を読まない」という宇都宮直樹さん。そんな彼が、「思わず一気読みした」というのが、「秘密」や「白夜行」などの人気ミステリーで知られる東野圭吾の「あの頃はアホでした」。自らの青春時代を、赤裸々に語った抱腹絶倒のエッセイだ。

最後まで爆笑し通しだったという宇都宮さん。もしや、自身も、振り返ると爆笑。な青春時代があったのかと思いきや、「育った時代が違うし、アホと言

えるような無鉄砲なことではできなかった」と案外クール。なかなか過去を暴露してくれない。しかし、「そう言えば、高校時代に」と意味深なひと言。山梨県に住んでいた宇都宮さんにとって、当時は自転車がいちばんの移動手段だった。「特に深い意味もなく、友だちと自転車ツーリングに出かけて、気がついたら、3つ市をまたいで、県境まで行っちゃいました」。あの頃の、あり余るエネルギー。はいったいどこへ? と自分でも不思議なんだとか。なんだかちょっと懐かしい、あの頃、エピソードは誰の心にもある。

MOVIE

BOOK

◆ Facility

帝京大学医学部附属の新病院
無事竣工式を迎える

平成21年5月1日の開院に向けて建設を進めていた帝京大学医学部附属の新病院（板橋区加賀）にて、平成21年1月19日、竣工式が執り行われた。地上19階—地下2階で1,154床を持つ新病院は、『特定機能病院』として今後ますます地域社会への貢献に努めていく。



◆ Staff Credit

| | |
|--|--|
| Produce モーグリーン | MO GREEN |
| Planner 須藤亮 (MO GREEN) | Ryo Sudo |
| Illustrator Shu-Tang Grafix | Shu-Tang Grafix |
| Photographer ARIKO | |
| 在本彌生 押尾健太郎 小尾淳介 田尾沙織 平野太呂 山内聡美 | Yayoi Arimoto Kentaro Oshio Junsuke Obi Saori Tao Taro Hirano Satomi Yamauchi |
| Editor 香川優喜 仲野聡子 (MO GREEN) 高橋和季 (MO GREEN) 遠藤日和 (MO GREEN) 山本素平 (MO GREEN) | Yuki Kagawa Satoko Nakano Kazuki Takahashi Hiyori Endo Shuhei Yamamoto |
| Art Director 武田昌也 (MO GREEN) 井口創 (MO GREEN) | Masaya Takeda So Iguchi |
| Designer 吉田学 (MO GREEN) 西原幹雄 (MO GREEN) | Gaku Yoshida Mikio Nishihara |
| Publisher 帝京大学本部 大学PR推進室 | TEIKYO University PR Section |

Flair

発行月：2009年3月（年4回発行）
発行：帝京大学本部大学PR推進室
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL 03-3964-4162 FAX 03-3964-9189
E-mail: post@med.teikyo-u.ac.jp
URL: http://www.teikyo-u.ac.jp/flair/
ご意見・ご要望をお待ちしております。
郵送またはFAX、E-mailにてお寄せください。
© 帝京大学 2009 禁・無断転載

◆ Award

女子柔道部、数々の入賞
冬季欧州国際大会シリーズにて

平成21年1月下旬に始まった上記大会に、本学女子柔道部から3名が参戦。平成24年のロンドンオリンピック出場への重要参考大会ともなる本大会にて好成績を収めた。大会結果は、以下のとおり。

【ブルガリア国際柔道大会】
78kg超級 5位 石山麻弥
(経済学部経済学科3年)

【フランス国際柔道大会】
57kg級 3位 松本薫
(法学部法律学科3年)

【オーストリア国際柔道大会】
57kg級 優勝 松本薫
(法学部法律学科3年)

78kg級 2位 穴井さやか
(経済学部経済学科4年)

【ドイツ国際柔道大会】
57kg級 3位 松本薫
(法学部法律学科3年)



◆ Championship

ラグビー部が日本選手権にて
社会人チーム相手に大接戦

平成20年に開幕した全国大学選手権にて準優勝を果たし、日本選手権（全10チーム出場）への出場権を獲得したラグビー部。社会人強豪のリコーと対戦し、トライ数差で2回戦進出ならずも、25対25のドローで十分なインパクトを残した。来シーズンにも期待が高まる。



◆ Association

交響楽団が慰問演奏
知的障害者更生施設『永耕園』へ

平成21年2月15日、八王子キャンパスの交響楽団が小田原市にある更生施設を訪れた。毎年この時期に行われる永耕園への慰問演奏は、交響楽団の恒例行事。『となりのトトロ』や『故郷』など、親しみやすい曲目を中心に1時間程の演奏を行い、入寮者との心の交流をはかった。

◆ Event

キャリアサポートセンターの
サテライトオフィスが
新宿に拠点を移して、ますます身近に

新宿の高層ビル群の一角にある新宿センタービル46Fでは、
在学生、卒業生なら誰でも、就職・転職相談やパソコン利用が可能。
サポート体制もパワーアップした点に要注目です。

就活に勝つためには、サポート
体制を知らないとソンをする!?

「就職活動のスタートが年々早まっている」とサテライトオフィスの相談員の方は話す。就職活動への漠然とした不安感がぬぐえない今、ひとりでそれに立ち向かうのはかなりハードなこと。以前、日比谷で在学生、卒業生をサポートしていたキャリアサポートセンターのサテライトオフィスが今年から場所、設備を新たにリニューアルしたのは、そんな人たちにとっての朗報に違いない。

さらに、総合人材サービスを展開する東京海上日動キャリアサービスと提携して、就職を支援する体制がより整った点もうれしい限り。取材で訪れた日は、ひっきりなしに学生が訪れ、相談員の方との会話には、まるで家族のようなアットホームな雰囲気が漂う。マンツーマンでの相談は予約制となるが、パソコンはいつでも自由に利用できるそう。まさに就職活動のパワーアップ拠点なのだ。今後は、就職に直接役立つ研修も計画中だという。親身になってくれる相談員の方たちの存在もあり、さらに信頼を厚くしている。



個人相談は予約制となる。初回は1時間～1時間半。
履歴書の書き方から面接の指導まで、就職・転職の悩み全般へのサポートが受けられる。

受付時間：9:30～17:00（月曜日～金曜日）
予約・受付：(株)東京海上日動キャリアサービス
新宿支社内「新宿サテライトオフィス」
http://www.career-creation.jp/satellite
☎ 03-5339-1955
e-mail: career-support@tcshaken.co.jp



利便性の高い新宿という場所にこだわっただけあって、パソコンを使いに来る学生もどっと増えたという。



46Fということもあって、見晴らしが抜群の研修室。この場所で就職に役立つ研修などが、続々と開催予定。

さらにパソコンなど設備が充実、
OA、マナー研修なども開催予定です

学年・卒業年を問わず、就職・転職活動の支援を必要とする人なら誰もが使えるサテライトオフィスの設備は、こぢんまりしていても充実したものだ。ゼミも定期的に使用するという研修室は、パソコン完備。サテライトオフィスが発足してから3年目を迎え、今後さらにその役割を増していこうだ。

Notice Board.

大学からのお知らせです